

### (1) 医療相談室の体制

今年度も室長(兼事務長)、医療ソーシャルワーカー2名で業務にあたった。一般病棟は、荒木、内田で担当し、亜急性期病床は内田、回復期リハビリテーション病棟を荒木が主に担当した。

### (2) 地域連携

#### ① 前方連携(紹介受け入れ)

全体の紹介件数は2,257件(前年比20%増)であり、近隣(三角町、大矢野町、松島町)の医療機関からの紹介は1,345件(前年比14%増)であった。紹介元の状況をみると、今年度も全体の約6割が近隣の医療機関からの紹介であり、特に3医療機関からの合計が近隣全体の約6割を占めており、紹介元の偏在が続いている状況である。診療科で別でみると消化器科、心臓血管外科医師の増員により、それらの科の紹介が増加した。また、前年と同じくCKD連携パスの導入によって泌尿器科の紹介件数が増加している。その他の診療科についてはほぼ前年度と同じ件数で推移している。

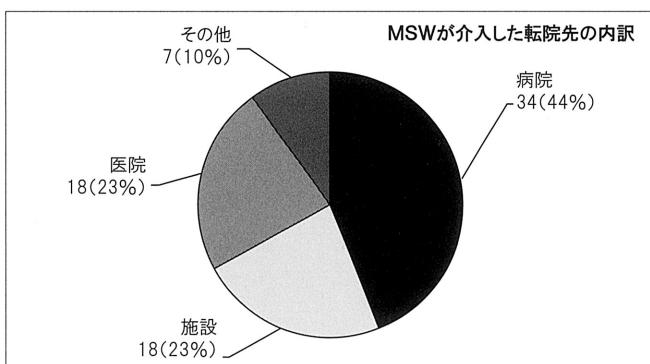
紹介件数の推移

	2010	2009	前年比
近隣	1,345	1,179	166
全 体	2,257	1,869	388

#### ② 後方連携(転院・入所調整)

MSWが介入し転院・入所調整を行った件数は77件(2009年度63件)と14件増であった。内訳では前年と同様、約7割が療養を目的とした医療機関への転院であり、残り2割が福祉施設(特別養護老人ホーム、老人保健施設)への入所となつた。介護施設は待機者が多く、すぐに入所できないことが多い為、最近、有料老人ホームへの調整も増加してきている。

当院周辺地域は、地元で療養したいと言っても、療養できる場所(医療機関、施設)が少なく、実際は地元から40Km以上離れた療養型の医療機関等に転院せざるを得ないのが現状である。そんな中でもできるだけ本人、家族の希望を叶える為、身体状況や医療依存度(経管栄養、吸引)、家庭環境(家族の高齢化、家族が遠方に住んでいる等)を考慮しながら、転院調整に取り組んでいる。今後もその為の情報収集や関係機関との連携を積極的に行っていきたい。



### ③ 連携先訪問

今年度は21カ所の連携先を訪問した。訪問目的としては、診療体制に関する情報提供や無料低額診療事業、出前健康講座の広報などであった。また、今年度の診療報酬改訂により介護支援連携指導料が新設された為、居宅介護支援事業所、介護施設へその説明と協力を依頼した。

### (3) 相談活動

相談延べ件数は2,535件(前年比6.8%増)であった。療養型医療機関や福祉施設への転院調整と在宅復帰に向けた援助活動はほぼ横ばいであったが、経済的な内容に関する相談件数が前年に比べ68%増と顕著な伸びを示した。経済的問題の相談の中には、家族の介護力の低下や、キーパーソン不在など多問題を抱えるケースも散見され、院内での協力体制の構築と行政や社会福祉協議会、福祉施設などとの連携強化に取り組んだ。

無料低額診療事業については、36件の申請があった。また、当事業の周知を行う為、近隣の開業医の先生へ説明に伺い、紹介元へ報告書を送るなどの取り組みを行つた。当事業は済生会の根幹を成すものなので、今後も積極的な事業の展開を行つていただきたい。

また、社会福祉推進事業(済生会生活困窮者支援事業)の3ヵ年計画を策定した。具体的には、福祉サービス利用者に対するインフルエンザ予防接種の一部負担金減額事業、低所得かつ要介護状態で家族の支援が困難な方への受診送迎事業、健康相談事業(出前健康講座にて)、生活支援連携協議会の開催などである。生活支援連携協議会については宇城市、上天草市の関係機関に協力をお願いし2回開催することができた。これらはまだ始まったばかりなので、関係機関にご意見を頂きながら事業を進めて行きたい。

### (4) 出前健康講座

出前健康講座は44回実施し過去最高となった。2004年の講座開始以来、地域での講演回数は150回を超えた。今年度も三角町、大矢野町、松島町を中心に依頼があり、特に脳神経外科医師による「脳卒中について」の講演が20回と約半数を占め、今年度も脳卒中予防の啓発活動ができた。また、新規団体からの依頼が17件あり、当講座に初めて参加する方も増加している。次年度も今年度同様、出前健康講座を通して地域住民の健康意識の向上につながるよう取り組んでいきたい。

### (5) 次年度の計画

次年度はMSWが1名交代することもあり、「第3期医療相談室活動の足固め」をスローガンに初心に戻り、相談・連携業務の見直しを行つていくこととした。無料低額診療事業・社会福祉推進事業の推進、出前健康講座の実践、医療機関・福祉施設・居宅介護支援事業所との連携強化に取り組み、地域住民が安心して生活できる環境作りを行つていただきたい。